

 <p><b>日本組織培養学会</b> <b>会員通信</b> <b>第137号</b></p> <p>平成 29 年 1 月 10日</p>	<p>発行者 * 森 一憲 (昭和大学)</p> <p>* 責任者連絡先 〒142-8555 品川区旗の台1-5-8 昭和大学 薬学部 生体分子薬学講座 腫瘍細胞生物学部門 TEL: 03-3784-8209 E-mail: mori@pharm.showa-u.ac.jp</p>
--	---

**目次**

1. 年頭のご挨拶 ..... 2

2. 日本組織培養学会 第90回大会 (平成29年) のお知らせ ..... 3

3. 第90回大会 奨励賞について ..... 6

4. 第90回大会 English Presentation Award (EPA) について ..... 8

5. 委員会報告 ..... 9

教育研究システム委員会報告

編集委員会活動報告

## 1. 年頭のご挨拶

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

早いもので、私が年頭の挨拶をさせて頂くのは、これが最後となりました。会長に就任していたこの4年間におきましては、2014年にiPS細胞由来細胞の臨床研究が世界に先駆けて実施されました。ご存知のとおり、iPS細胞由来の網膜色素上皮細胞のシートを加齢黄斑変性症の患者さんに移植するというものでした。残念ながら、2例目の移植は中止となりましたが、1例目の移植例は問題なく経過していると聞き及んでおります。

組織培養や細胞培養を取り巻く状況は激変していると言っても過言ではありません。そのような中で、従来あまり関心を持たれていなかった、細胞そのものの品質管理や標準化あるいは細胞培養技術の標準化といったことが注目されるようになってきたことは、とても良いことだと思っております。本学会の会員の皆様におかれましては、そうしたことの重要性を従前から認識していた訳ではありますが、研究コミュニティの共通認識として広く浸透し始めたことは、培養細胞を利用する基礎研究から応用研究のすべての分野において大変有意義なことと思いますし、必須のこととも思います。しかし、まだ完全に浸透したわけではありません。従って、本学会の活動は今後も益々重要性を増していくものと考えております。

昨年の年次大会は、医薬基盤・健康・栄養研究所の古江-楠田美保先生に大会長をお引き受け頂き、「細胞の形態を計（み）る」をテーマとして、千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）にて開催され、たいへん盛況な大会となりました。

今年の大会は、岡山理科大学の片岡健先生に大会長をお引き受け頂いており、「組織を培（つちか）う」というテーマで、6月30日（金）、7月1日（土）の2日間、岡山理科大学・創立50周年記念館（岡山市北区理大町1-1）において開催されます。万障お繰り合わせのうえ、ご参加を賜れば幸甚です。また、奨励賞及びEnglish Presentation Award (EPA) への応募もお待ちしております。

本年4月からは、既にご案内をしておりますように、新執行部による運営に移行いたします。会員の皆様には、変わることなく学会活動へのご支援とご協力を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆失礼ながら、会員の皆様のこの4年間のご厚情につきまして心より感謝の意を表しますと共に、会員の皆様のご健勝並びにご研究のご発展をお祈り申し上げます。

平成 29 年 1 月 会長 中村 幸夫

## 2. 日本組織培養学会 第 90 回大会（平成 29 年）のお知らせ

### ご挨拶

このたび日本組織培養学会第 90 回大会を、岡山理科大学（岡山市）において、平成 29 年 6 月 30 日（金）、7 月 1 日（土）の 2 日間の日程で開催する運びとなりました。会員の皆様には奮ってご発表、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日本組織培養学会の創設期は、動物組織から細胞を単離して培養する技術の開発が盛んでした。材料となる組織から正常な細胞を単離して有限増殖の範囲で行う培養が、今でいう「初代培養」です。私たちの体を構成している様々な組織の機能などについて研究するために、初代培養の技術は飛躍的に進歩しました。一方でがん治療法の開発などにはがん組織からクローン性に増える細胞株を樹立する必要があります。ヒトがん組織からはじめて樹立された HeLa 細胞を皮切りに、数多くの株細胞が樹立されがん研究を推進してきました。こうした細胞培養のために考えられた様々な工夫が、iPS 細胞をはじめとする幹細胞培養技術として花開きました。日本における動物細胞の培養研究をリードしてきた「日本組織培養学会」の所期の目的はかなり達成され、多くの成果を残しました。

しかし時代は新たな課題として、バラバラの細胞を材料として組織が形成されること、つまりこれまでとは逆ベクトルの技術を要求しています。再生医学をはじめとする生命科学研究では、in vivo と in vitro の実験系を自由に行き来し、細胞の単離と組織形成を思うように操る技術が今後ますます重要になってきます。本大会のテーマ「細胞を培（つちか）う」は、組織細胞を培養することからはじまったこの日本組織培養学会が、細胞を集めて組織を形成する培養技術の研究でも存在感を示していくことを期待して決めました。特別講演やシンポジウムを通じてこの新しい流れを体感し、ディープディスカッションや一般演題で意見を十分に交換していただけるようなプログラムを組みました。また、例年開催している細胞培養指導士講習会として、医薬基盤・健康・栄養研究所の古江-楠田 美保先生のご協力で「Good Cell Culture Practice (GCCP)」をテーマとしたシンポジウムを企画しました。一方で事務作業の負担を軽減するため、演題登録は電子メールで行うことにしました。また大会の事前参加登録と事前振込を取りやめて、当日会場での手続きに一本化します。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大会 1 日目に開催する懇親会も含めて、楽しく有意義な学会となるよう鋭意準備をしてきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大会長 岡山理科大学教授  
片岡 健

### 大会概要

大会長 : 片岡 健（岡山理科大学）  
テーマ : 組織を培（つちか）う  
会期 : 平成 29 年 6 月 30 日（金） - 7 月 1 日（土）  
会場 : 岡山理科大学・創立 50 周年記念館（岡山市北区理大町 1-1）

## 予定プログラム・スケジュール

### ○ 特別講演

1. 竹内 昌治 先生(東京大学生産技術研究所)
2. 辻 孝 先生(理化学研究所多細胞システム形成研究センター)

### ○ シンポジウム

1. 「3次元組織の作り方」
2. 「リプログラミングを応用したがん幹細胞研究」
3. 「Good Cell Culture Practice (GCCP)」※

※GCCP シンポジウムは細胞培養指導士講習会を兼ねて開催します

### ○ ディープディスカッション

1. 「炎症とがん」
2. 「皮膚組織研究」

### ○ 奨励賞対象演題、English Presentation Award

### ○ 一般演題※

※一般演題に応募された演題は、学会事務局にてポスター、一般口演、ディープディスカッションなどに調整、決定させていただきます。予めご了承ください。

## 大会スケジュール

	6月29日(木)	6月30日(金)	7月1日(土)
午前		奨励賞演題、一般演題 ディープディスカッション	一般演題、シンポジウム ディープディスカッション
午後	幹事会	シンポジウム 特別講演1、2 ポスター(奨励賞演題、一般演題)	総会 シンポジウム 一般演題
夕方		懇親会	

### 一般演題・奨励賞対象演題募集

演題登録は例年と異なり、指定の様式を用いた発表要旨を電子メールで受け付けることに致します。  
詳細は大会ホームページに掲載致します。

演題登録期間 : 2017年3月10日(金)～ 3月31日(金) 締切厳守

また、奨励賞対象演題に応募される場合は、所定の申請書類を 2017年2月14日(火) までに提出(電磁送付、または郵送)して下さい。詳しくは p.6「3. 第90回大会 奨励賞について」、またはホームページでご確認ください。

学会ホームページ <http://www.jtca.net/>

または大会ホームページ <http://jtca.umin.jp/meet/y2017/index.html>

## 参加費

会員種別	大会参加費	懇親会参加費
一般会員	6,000 円	4,000 円
学生会員	3,000 円	3,000 円
非会員	7,000 円	5,000 円
学生非会員	4,000 円	4,000 円
名誉会員	全額無料	

- ・ 一般会員および学生会員には、日本動物実験代替法学会会員および学生会員も含まれます。
- ・ 参加費のお支払は、当日受付でお願い致します。
- ・ 領収証の必要な場合は、受付でお申し付けください。

## 大会事務局

岡山理科大学 理学部 臨床生命科学科 細胞生物学研究室

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1

TEL; 086-256-9417

FAX; 086-256-9417

E-mail: [jtca90@gmail.com](mailto:jtca90@gmail.com)

### 3. 第90回大会 奨励賞について

教育・奨励賞担当幹事 絵野沢 伸

#### 1. 申請資格

- ・ 日本組織培養学会の会員であること(申請時において会員である必要があります)。
- ・ 2017年4月1日現在で40歳以下であること。
- ・ 今大会にて発表する奨励賞応募演題の筆頭発表者であること。
- ・ 日本組織培養学会 奨励賞を未受賞であること。

#### 2. 申請方法

申請用紙を本学会ホームページよりダウンロードしてご記入ください。申請書類には、本学会評議員の推薦状が含まれます。推薦者の捺印や直筆サインは不要ですが、承諾は得てください。申請書類をメール添付にて「6.問い合わせおよび申請書送付先」宛てに送付し、演題登録許可を得てください。その後、大会ホームページから演題抄録の登録を行っていただきます。

申請用紙ダウンロードURL: [http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm\\_2017.doc](http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm_2017.doc)

#### 3. 〻切

2017年2月14日(火)

※演題登録許可の取得前に抄録登録は行わないようお願い致します。

#### 4. 発表形式

今後、ウェブサイトの大会ホームページにて詳細をご案内いたします。なお、前回大会においては、ポスター前での口頭発表(10分)と質疑(4分)を行っていただきました。

#### 5. 受賞者の皆様へのお願い

受賞者は以下の学会活動へのご協力をお願いします。

- (1) 会員通信へ「受賞の感想」を寄稿する。
- (2) 受賞題名に関連する論文(原著、または総説)を本学会機関誌(Tissue Culture Research Communications)に投稿する。

#### 6. 問い合わせおよび申請書送付先

絵野沢 伸(えのさわ しん) <enosawa-s@ncchd.go.jp>

国立成育医療研究センター研究所先端医療開発室

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話03-5494-8163(直通)

FAX 03-3417-2864

## Young Investigator Award (YIA), Application and Presentation

### 1. Applicants must meet the following criteria

To be the member of "Japanese Tissue Culture Association".

To be equal to or less than 40-year-old on April 1, 2017.

To be the first author of presentation of title applied for young investigator award.

Not to have received "Young Investigator Award of Japanese Tissue Culture Association" previously.

### 2. Presentation

The style of presentation will be announced in the "The 90th Annual Meeting Website". For reference, the style of presentation in 2016 meeting was 10-min oral presentation and 4-min discussion using poster display.

### 3. Awardees are requested;

(1) to submit the comments of impression for getting the Young Investigator Award to News Letter of Japanese Tissue Culture Association.

(2) to submit the paper (regular articles or review articles) to "Tissue Culture Research Communications".

### 4. Application

Download the application form from JCTA website. Please fill the form and apply to the below address by e-mail or registered mail. After the acceptance and approval of application, you will be requested to submit the abstract through registration in the Annual Meeting website.

Download the application form; [http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm\\_2017.doc](http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm_2017.doc)

### 5. Deadline of application.

February 14, 2017

Please do NOT submit to registration BEFORE the approval of application by YIA office.

### 6. Mailing address.

Shin Enosawa <enosawa-s@ncchd.go.jp>

Division for Advanced Medical Sciences, National Center for Child Health & Development

2-10-1 Ookura, Setagaya-ku, Tokyo 157-8535, JAPAN

Tel; 03-5494-8163

Fax; 03-3417-2864

#### 4. 第90回大会 English Presentation Award (EPA)について

会員の国際的発信能力の増進を奨励し、本学会の活性化を図るため、2014年の幹事会で設置が承認され、2015年の第88回大会（広島）から開始されました。選考規定に従いご応募ください。

##### ●日本組織培養学会 English Presentation Award (EPA) 選考規定

第1条 名称: 日本組織培養学会 English Presentation Award (略称 EPA) と称する。

第2条 目的: 会員の国際的発信能力の増進を奨励し本学会の活性化を図る。

第3条 受賞対象: 本学会の会員であり、本学会大会の EPA 対象応募演題（口頭発表）の筆頭学術発表者であって、要旨記述ならびに口頭発表を英語で行った者。尚、受賞者は再度応募出来ない。

第4条 発表期限: 当該年度の本学会大会で発表されたものに限る。

第5条 応募方法: 演題申込時に EPA 応募の旨を明記する。尚、応募の期限は演題申込締切日とし、応募演題は一人一題に限る。

第6条 選考: 大会長に一任する。

第7条 表彰: 本学会の総会時に発表し、賞状ならびに副賞を贈呈する。

第8条 改訂: 幹事会で行う。

附則: 本選考規定は平成28年度から実施する。

##### The prescription for English Presentation Award (EPA)

1. Nominal: English Presentation Award abbreviated as EPA of the Japanese Tissue Culture Association (JTCA).
2. Purpose: To encourage the JTCA members to present research achievement in English with the aim of transmitting JTCA activities internationally.
3. Candidate: Must be a member of JTCA and a first author of the oral presentation in the annual meeting of JTCA. Abstract should be written in English and presentation as well. Previous awardees are precluded.
4. Application: Specify the request of nomination at the time of abstract application. One application per each author.
5. Discretion: The relevant meeting president is responsible.
6. Commendation: Awardees are announced at the general meeting of the annual meeting and sent an award certificate and an extra prize.
7. Revision of the criteria: Executive members of JTCA are responsible. Supplement: This criteria is enforced at January, 2016

## 5. 委員会報告

### 教育研究システム委員会報告

教育研究システム委員会

片岡 健

日頃より日本組織培養学会教育研究システム委員会の活動へのご理解・ご協力をいただき感謝しております。平成 28 年度はこれまでに培養基盤技術コースⅠを 4 回、コースⅡを 1 回開催し、平成 28 年 12 月末の時点でのべ 53 名（コースⅠ:34 名、コースⅡ:19 名）の学会員が受講いたしました。年度内の予定として、コースⅠの開催（平成 29 年 2 月）、細胞培養士認定試験を含むコースⅢの開催（平成 29 年 3 月）をともに京都大学 iPS 細胞研究所で予定しています。この基盤技術コースは平成 28 年度より、前年度中に入会した会員を対象とすることにいたしました。詳細につきましては会員通信第 134 号でご確認願います。

また次回第 90 回大会（平成 29 年 6 月 30 日-7 月 1 日、岡山理科大学にて）の細胞培養指導士講習会は「Good Cell Culture practice」をテーマとしたシンポジウムとして開催いたしますので、奮ってご参加ください。

今後とも会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 編集委員会活動報告

編集委員会

中村幸夫

現執行部になりまして、年次大会の抄録集は学会誌として紙媒体で発行することは継続し、それ以外の学会誌の発行は基本的にはオンライン化することに決定いたしました。

昨年のご報告といたしましては、2016 年 7 月に、原著論文 1 報、総説 1 報、特別寄稿 1 報を J-SATGE に掲載・公開いたしました。また現時点で、原著論文 2 報、総説 1 報の査読作業を進めております。

編集委員会・委員長は、本年 4 月より、次期会長である浅香勲先生に兼任をして頂くことで、昨年の幹事会及び総会にて承認を得ております。引き続き、多数のご投稿を賜りたく、宜しく願い申し上げます。